あの日を忘れない

（東日本大震災から 12 年）

2011 年 3 月 11 日、国内観測史上最大のマグニチュード 9.0 を記録した東日本大震災から 12 年が経ちました。被災された方々、市町村、企業などに心からお悔やみ申し上げますと共に、被災から復興された方々に敬意を表したいと思います。株式会社ボンマックスの物流センターと 100%子会社 東北縫製株式会社(現 株式会社ボンマックスアパレル)は、あの「奇跡の一本松」で有名になった三陸陸前高田の高台にありました。津波の直接被害はまぬがれたものの、家族を失った、家を失った従業員はほぼ半数を数えました。ユニフォームにおいては最需要期の 3 月で 10 億円以上の出荷すべき商品が陸前高田の物流センターにあり、これを何が何でもお客様のもとに届けなければなりませんでした。「あの日を忘れない」そんな思いで、当時を振り返り、記録を残す事にしました。ご高覧頂ければ幸いに存じます。

そして 2023 年夏、岩手県最後の仮設住宅があった陸前高田市滝の里工業団地の約 10,000m^{2}の敷地に、当グループの総合物流センターの着工が始まる予定です。ボンマックスは今後も陸前高田市と共に発展していく所存です。

株式会社ボンマックス　外川雄一

＜イメージ＞陸前高田市滝の里工業団地跡に建設予定の総合物流センター

before

after

※本稿は、2021 年 3 月震災 10 年を機に弊社ホームページに記載したものを一部変更して掲載いたしました。

第一章　東日本大震災の被害

3 月 11 日(金)　14:46
マグニチュード 9.0 の大地震が東北地方を襲いました。

その後しばらくして三陸地方に大津波の恐れがあるとニュースが報じました。

東北縫製・物流センターは高台にあったので社員は全員無事でした。

15:30 頃
陸前高田の海岸にも津波が押し寄せ始めました(工場から撮影)。

津波はあらゆるものをなぎ倒し間もなく列車も線路も飲み込む寸前(工場から撮影)。

あっという間に眼下一面瓦礫の海と化しました。

ライフラインが途絶し、流された自宅にも戻れず、歩いて避難所に移動する従業員も数多く出ました。家族とも連絡が取れず、数日を過ごすことになる人たちもいました。

3 月 12 日(土)
縫製工場の中はご覧の通りの惨状でした。屋根、蛍光灯、断熱材も落ちて床一面に散乱しました。

3 月 13 日(日)
当社４号倉庫は全滅、シャツ 10 万枚が流出してしまいました。

当社の看板も瓦礫に埋もれてしまいました。

会社前の竹駒駅はコンクリート駅舎のみが残りました。

第二章　50 万点移送計画

3 月 13 日(日)
ボンマックス本社の緊急対策会議を終えた「梧桐」は、新潟経由陸前高田に到着しました。

梧桐はまっ先に物流センターに向かい被害が軽微だった事を確認することができました。

3 月中の出荷に必要なもの「ライフライン」「システム(伝票アウトプット)」「商品在庫」「物流スペース」「マンパワー」

3 月 14 日(月)
早速向かいの小沢ビル 2 フロアーと深川倉庫を借り上げました。

3 月 15 日(火)
東北から東京と名古屋に 50 万点の製品を移送する術がなかなか見つかりませんでしたが秋田の代理店㈱辻兵様の辻社長(秋田いすゞ社長も兼務)に助けを求めました。

数時間もたたないうちに、秋田いすゞ様のトラックの納入先で、自社地下タンクに軽油を保有する「アイビーデリバリー」社様に渡りをつけて下さり、「10 トン車、4 トン車何台でも出してやるぞ」との力強いお返事をいただき、社員一同から歓喜の声があがりました。

3 月 18 日(金)～19 日(土)
外川、児玉ら 12 名が羽田から秋田へ飛びガソリンも準備して陸前高田に入りました。

街中は津波被害の爪痕がむき出しになっており、皆言葉を失いました。

鉄道橋もへし折られていました。

代理店や取引先の皆様から頂戴した支援物資のおかげで工場内に避難所暮らしの従業員用「無料ショップ」も開設出来ました。

当時、陸前高田は零下５度。コロンビア様から寄付いただいた高性能の寝袋が本当にありがたかったことでした。

アイビーデリバリー様が届けてくださった 750kg の発電機と軽油のおかげで 16 時間×1 週間の移送作業が可能になりました。

3 月 20 日(日)
ハンガーにつってある 50 万点の商品を 1 万箱のダンボールに詰めて出荷する作業が始まりました。

二階から商品を降ろす作業で 100 回以上の昇降により、夜には社員も足腰立たず。

その夜、キャンプ好きの織内がロープを通してくれたおかげで翌日からの効率が劇的に向上しました。

1 日 2,000 箱のダンボール(16 時間労働)× 5 日間(21 日～25 日)がノルマでした。

アイビーデリバリーのトラックが毎日荷物を取りに来てくれました。

トラックへの積み込みに明け暮れました。

3 月 22 日(火)～
ハンガー商品をかける「Z ラック」が 2000 台用意され、東京と愛知に配備されました。

3 月 13 日から借り上げた深川の倉庫に主力商品が運ばれました。

帝人テクロス様から借りていた愛知のカスタマイズセンターがメインの受け入れ先になりました。

3 月 25 日(金)
全国から 20 名超の営業マンが集結し、ピッキング&出荷作業に没頭しました。

3 月 30 日(木)
オーダー頂いていた在庫の全てをお客様に出荷する事が出来ました。

第３章　復旧

３月 21 日(月)
東北縫製は応急処置で仮看板を立てました。

４月 18 日(月)
38 日ぶりに電気が復旧し東北縫製のメンバーが戻ってきました。

避難所から来てくれたスタッフも…。

復旧後すぐの第一物流センターのメンバーです。

復旧後すぐの第二物流センターのメンバーです。

震災から２ヶ月、東北縫製・東北物流センターのほぼ全員の社員が職場に復帰してくれました。

そして今、震災から 12 年が経ちました。我々はあの衝撃を忘れてはいけないし、それを後世に伝えていかなければなりません。「不退転」の決意で社員が一丸となれば、どんな難局も何とか乗り切る事が出来ることも学びました。でも、その社員一丸となって頑張ろうという気持ちの原動力は、お客様からの励ましや寛大さ、取引先様からの援助、関係各位皆様からの支援、やさしさでした。本当に感謝の気持ちでいっぱいですし、今もそれらを忘れることは出来ません。本当にありがとうございました。これからも何度も想定外の非常時はあるかもしれませんが、「何が何でも」という強い決意で会社が結束すれば必ず乗り越えられると確信しています。そう信じて、これからも業務に邁進していく所存です。

末筆ながら、この震災によって被害に合われた方々に心より「哀悼」と「お見舞い」を申し上げると共に、そこから復興・復活された皆様に「称賛」と「エール」をお送り致します。

2023 年 3 月 11 日
株式会社ボンマックス　外川雄一